

死刑廃止国際条約の批准を求める

FORUM90

地球が決めた死刑廃止

VOL.130 頒価 300 円

2013 年 8 月 9 日発行
フォーラム 90 実行委員会
〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-14-13
港合同法律事務所気付
TEL : 03-3585-2331
FAX : 03-3585-2330
振替口座 : 郵便振替 00180-1-80456
加入者名 : フォーラム 90

主要目次

8.31 講演について 辺見庸 1 頁

9 月に東京で「死刑囚の絵画展」を開催します アムネスティ・
インターナショナル日本 2 頁

死刑廃止全国合宿 in 広島へ 4 頁

響かせ合おう死刑廃止の声 2013 5 頁

演劇評「太平洋食堂」 可知亮 6 頁

インフォメーション 7 頁

辺見庸講演会

死刑と新しいファシズム

戦後最大の危機に抗して

8 月 31 日 [土] 開場 18 時 15 分 開演 18 時 45 分

四谷区民ホール・丸ノ内線 新宿御苑前 2 番出口より徒歩 5 分

入場料 1500 円 (前売り / 当日共)

前売り予約 fax 03-3585-2330 メール stop-shikei@jca.apc.org

〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-14-13 港合同法律事務所気付

主催 死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム 90

◇本誌発送段階ですすでに多くの方から予約が入っております。前売り券が売り切れの可能性がありますのでその節はご容赦ください。なお売り切れの場合、当日券は発行できません。

辺見庸講演会

死刑と新しいファシズム



8月31日[土]

開場 18時15分 開演 18時45分

場所 四谷区民ホール

入場料 1500円(前売り・当日共)

前売り予約 ☎ fax 03-3585-2330 / メール stop-shikei@jca.apc.org / ハガキ
お名前、住所、枚数、電話番号をお知らせください。
(450 人の会場です。前売券をお求めください。入場は前売券をお持ちの方から優先的に入場させていただきます)

主催 死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム 90 〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-14-13 港合同法律事務所気付
振替口座 : 郵便振替 00180-1-80456 加入者名 : フォーラム 90 tel. 03-3585-2331 fax. 03-3585-2330

◎ 8.31 講演について

この酷い夏をどうやって堪えるのか。骨もとける炎熱と患者たちの祝祭 = 選挙の結果、何人が死に、いったいなにが立ち上がってくるのか。わたしは年来の断念癖と気鬱症のなかで、ずっとぐずぐずと想いまどっておりました。現状は、私見によれば、すでに堪えがたいものであります。わたしや皆さんが多少これに抗ったところで、明日がどうなるというものでもないことは言うまでもありません。しかし、堪えるべきではない現在にじっと堪えるのと、どうかんがえても勝ち目がなく、きわめて悲観的で不確実でもある未来のために、ここで現状に抗ってみる——のふたつは、さしたる異同がないようできて、この酷い夏の実存の過ごし方としては、大きなちがいがあってもあります。で、わたしは前者よりも後者、すなわち、沈黙と忍従よりも不確実な反抗に賭けてみることにしました。今回の講演は、これまでのように主催者側の要請によるものではなく、わたしがはじめて (年がいもなく) 衝動的に志願し、主催者側がこれを快諾して、多忙ななかを慌ただしく準備してくれているものです。「フォーラム 90」の友人たちに心から感謝するとともに、わたしは 8 月 31 日、いま語るべきこと、語ってはならないとされていること、語っても詮ないとみなされていること、語ろうとして語りえないこと、とりわけ、死刑とファシズムについて、心中の解けない塊を吐こうとおもいます。状況の全般的悪化のなかで、わたしはいま、次の絞首刑の執行が用意されていると予感せざるをえません。国家はかつて以上に暴力化しつつあります。これにただ口をつぐみ、目をそむけ、すべてを冷殺するだけでよいものかどうか……。わたしたちの日常が、真剣に想いをいたすべき大状況から、いまほど断絶させられているときはありません。生身の個が大状況に突き刺さり、沈黙と忍従よりも不確実な反抗に賭けてみることは、いったいどういうことなのか。それは可能か不可能か。8 月 31 日夜、拙いながらも必死でお話いたします。(辺見庸)

9月に東京で「死刑囚の絵画展」を開催します

『死刑囚の絵画展』 —囚われているのは彼らだけではない—

日時：2013年9月28日（土）12時～22時 29日（日）9時～18時

会場：渋谷区総合文化センター大和田 2階ギャラリー大和田

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 17-5 03-3780-1717

入場無料

主催：アムネスティ死刑廃止ネットワーク東京

協力：死刑廃止のための大道寺幸子基金

広島県の鞆の津ミュージアムで開催された『極限芸術～死刑囚の表現～』は大成功裏に終了しました。アートブリュットという枠組みの作品を展示する美術館である鞆の津ミュージアムは、従来の芸術の枠を打ち破る展覧会を次々と開催しています。その中でも今回の展覧会は圧倒的に多くの人に足を運ばせたようです。それほど多くの人を惹きつけるものが、死刑囚の表現の中にあるということです。社会から隔離され、存在を生きのまま無きがごとくにされてしまっている死刑囚たちは、表現の中にこそ思いのたけを込めているでしょう。その表現作品に出会った人たちのツイッターや口コミなどで評判になり、興味を持った人が増えていき、5千人を超える人が足を運んだのです。多くの人を惹きつけたその一端は、展示方法が今までと違うということもありました。正式な美術館での展示というのは初めてですし、3ヶ月という長期の開催期間も前代未聞でした。しかし一番重要なのは、作品展示の仕方が芸術作品を扱うという手法に貫かれていたことだろうと思います。見る側の印象は今までと全く違っていました。作品の持つ力が、展示の仕方によって見事に引き出されたということでしょう。

アムネスティ死刑廃止ネットワーク東京では、この鞆の津ミュージアムでの展覧会の勢いをそのまま東京に持ち込みたいと考え、「死刑囚の絵画展」を行います。死刑囚に対しては、裁判の判決文やメディアの報道などの中で「処刑されるのが当然で、自分たちとは異質なモンスター」というステレオタイプなイメージが繰り返されます。実際の死刑囚がどのような人間であり、彼ら彼女らがなぜそのような犯罪に至ったのかなどの点についてはほとんど顧みられることはありません。日本国家に身体を囚われているのは彼ら死刑囚ですが、死刑囚の本当の姿を見られない状態に置かれ、事実をしらない状況に囚われているのは、我々獄外に生きる者のほうかもしれません。東京渋谷の公共施設「渋谷区総合文化センター大和田」の2階にあるギャラリーを借りて、80点～100点ほどの

作品を展示したいと考えています。鞆の津ミュージアムは3ヶ月という長丁場で多くの人を集めたのですが、わたくし共は予算的措置もなかなか難しく9月28日（土）29日（日）の二日間だけの開催となります。空間的にはそれなりのひろさがあるので、できる限り多くの作品をきちんと展示したいと考えています。

坂上香さん講演会一月と刑場 死刑制度を持つ社会に生きるということ

日時：2013年9月21日（土）

開場 14:00 開演 14:30

会場：伊藤塾東京校

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 23 - 21

03-3464-3251

入場料：500円

主催：アムネスティ死刑廃止ネットワーク東京

共催：伊藤塾

それに先立ち9月21日には、これら死刑囚の表現作品を募集している「死刑廃止のための大道寺幸子基金」の選考委員のひとりである映像作家の坂上香さんの講演会を行います。『月と刑場—死刑制度を持つ社会に生きること』と題して、坂上さんの映像作品「月と刑場」を見て、死刑制度とは何か、死刑囚の表現から見えてくるものは何か、といったお話をさせていただきます。「月と刑場」は東京拘置所を主な被写体としています。その拘置所の内側で死刑という罰を背負った人たちが生きています。そのことを外側で生きる私たちはどのように受け止め考えていけばいいのか、ということを考えさせられる映像作品です。罪と罰そして更生の問題について長年取材をしてきた坂上さんのお話を通じて、死刑囚の表現から見えてくるものは何か、死刑制度とは私たちの社会にどのような影響を与えているのか、といった問題を丹念に検討する機会とし、死刑囚の絵画を見る上での羅針盤のような機会にしたいと考えています。



ポンズの夢

た

高橋和利さん《ポンズの夢》2012年

2013年9月28日(土) 12:00~22:00
29日(日) 9:00~18:00



林真須美さん《四面楚歌》2011年

風間博子さん《不動》2010年

松田康敏さん《まな板の上のフグ》2007年

死刑囚の 絵画展

囚われているのは彼らだけではない

■会場：渋谷区文化総合センター大和田2階 ギャラリー大和田 ■入場料：無料

坂上香さん講演会

「月と刑場 死刑制度をもつ社会に 生きるということ」



2013年9月21日(土) 開場 14:00 開演 14:30

- 定員：100人（予定）
- 参加費：資料代として500円（予定）
- 会場：伊藤塾東京校

主催：公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本
 協力：死刑廃止のための大道寺幸子基金
 共催：伊藤塾

お問合せ：アムネスティ・インターナショナル日本
 TEL：03-3518-6777
 E-mail：adp-team@amnesty.or.jp



これらのイベントは、皆様の賛同カンパによってなっています。
 ご賛同いただける皆様の、カンパを募集しております。

死刑廃止全国合宿 in 広島へ

広島では、2012年2月に東京で行われた死刑映画週間をきっかけに、広島でも裁判や冤罪、死刑をテーマにした映画の上映企画を行いたいという声があがり2012年3月から有志が集まって、これまでに上映されてきた死刑映画などを通して、改めて死刑とは何か、社会とは何か、命とは何かを市民のみならずと一緒に考えるための企画を考え始めました。私たちが独自に東京や京都のような大掛かりな映画週間を行うのはなかなか難しいこともあり、これまでには昨年6月に「死刑弁護人」の特別先行上映会と齊藤潤一監督と安田好弘弁護士のトークイベントを行い、今年4月には「約束」の特別先行上映会と齊藤潤一監督、山本太郎さん、河井匡秀弁護士のトークイベントを開催しました。今年7月には「朴秉植さん・高貞元さん」を囲む会を行いました。その他にも広島県内で上映される死刑や冤罪をテーマとした映画やイベントの情報提供なども行ってきています。

そんな中、死刑廃止合宿を広島で開催できませんか？というお声をかけていただきました。せっかく与えていただいた機会なので、「いのちと平和」を死刑映画から考える会のメンバーが中心となり、実行委員会を作りました。

2011年は死刑の執行が行われませんでした。2011年の年末、私たちは広島の隣の岩国選出の法務大臣に対して、「執行しないでほしい」というよびかけを行いました。けれども、法務大臣が交替した後の2012年2月には、広島拘置所において上部康明さんの死刑が執行されてしまいました。

広島は「平和都市ヒロシマ」として、被爆の体験から平和を世界に発信する使命を持っていると言われています。国家が行う殺人は戦争と死刑だと言われています。広島では、被爆の体験から、反戦や反核、反原発については語られてきました。けれども、その一方で「死刑」については、語られる機会は少なく、広島に処刑場があることすらあまり知られていない現実があります。実際に長年広島で生活している知人から「広島に処刑場があるとは知らなかった」と言われたこともあります。

そんな中で、いのちについて、平和について考えるためにも、一人でも多くの人たちと一緒に、死刑について少しでも話ができる場所を設けたいという思いから今回の死刑廃止合宿をお引き受けすることにしました。

そこで、1日目には、公開シンポジウムとして、広島近隣の市民を対象に「ヒロシマから死刑といのちを考えるシンポジウム～死刑・原発・戦争～」というテーマで公開シンポジウムと分科会を予定しています。分科会の具体的なテーマについて、現在、実行委員会で検討していますが、広島で現在行われている死刑確定者の再審請求のための弁護人の接見に刑務官の立ち合いがつくことの違法性を争う裁判で原告側の勝訴判決が続いていますので、そのこともテーマの一つにあげたいと考えています。詳しくは、次回のニュースではご報告できるようにしたいと思います。

時期については、安芸の宮島の秋の紅葉が美しい時期を選びました。

ぜひ、今秋は、安芸の宮島にいらしてください!!
お待ちしております。

★死刑廃止合宿公開シンポジウム

「ヒロシマから死刑といのちを考えるシンポジウム～死刑・原発・戦争～」(仮題)

日時：2013年11月30日(土)13:00～18:00
場所：アステールプラザ(広島市中区)

★死刑廃止合宿2013 in 広島

日時：2013年11月30日(土)19:00～
12月1日(日)12:00
場所：アステールプラザほか

主催：「ヒロシマから死刑といのちを考えるシンポジウム」実行委員会
お問い合わせ：090-8069-9370
詳細は、追ってご連絡いたします。

演劇評

「太平洋食堂」を観て

(作・嶽本あゆ美)

明治後期、日露戦争の時代に紀州新宮で「ドクトル」と呼ばれた医師・大石誠之助は、「太平洋食堂」を開店する。この劇は大石誠之助をモデルとした大星誠之助が「太平洋食堂」を開店して、大逆事件に連座し死刑執行されるまでを描いている。医師の誠之助は常に優しく患者に接して診療し、貧しい者からは「支払いはいつでもいい」と言って受け取らなかった。したがって被差別部落の人たちから慕われていた。その彼が「太平洋食堂」を開き、上下の差別なく世界の美味しい料理を提供しようとした。残念ながらそんな彼の行動は、当時の人々にうまく理解されなかったようだ。この劇を数年越しで

書き上げたという嶽本あゆ美は、パンフレットにこう書いている。『大石誠之助全集』に残されている誠之助のレシピは、非常におもしろく実利的なものばかりです。ポイルド・サーモンに始まり、本格カレー、臓物料理、サンドイッチ各種、各種ドレッシング、和洋折衷の味噌マヨネーズや汁粉チョコなど、実際に厨房に馴染んだ人にしか書けない事ばかりです。彼のレシピは『太平洋食堂』に生かされて非常に美味しい料理だったということですが、何故か食堂は流行らず一年未だで閉店しました。全集にはその他、彼の都々逸や多数のコラムが有り、そこからは明治人らしい野放図さが伺い知ることができ、どのページを開いてもクスクス笑いが止まりません。」

誠之助は地元素封家の生まれであり、生活には困らなかった。渡米し、医者になり、インドを旅し、社会主義者であった。芝居の中の誠之助の有り様を見ると、彼はいつもユーモアを忘れずに、いろいろのことに対処していた人物であることがわかる。この劇は、そういった誠之助を取り巻く人々との関係を描き、日露戦争勝利に酔い国家主義がむき出しになってくる時代状況が、誠之助を大逆事件に巻き込んでいく過程が描かれている。彼の社会へのコミットの仕方が、なかなか当時は受入れられなかった。日露戦争で勝って日章旗が町中で振り回され、人々が熱狂している。世界を見てきた社会主義者である誠之助は「君死にたまふことなかれ」の精神であることは当然だ。そんな好戦的な社会に抗して闘い、新聞などを発行していけば、権力に目をつけられる

ことになる。しかし、誠之助は通りいっぺんの主義者と言われる存在ではなく、近隣の人々や出会った人々と人生を楽しく自由に謳歌しようとしていた。

ただ社会の不正は許せなかった。そんな誠之助たちはいったいどんな悪いことをしたのだろうか。大逆事件という全くのフレームアップで彼も拘束される。最終的には24人に死刑が宣告され、12人が処刑されてしまう。そのあまりの理不尽さに舞台を観る私の心はかき乱され、カーツとなり、冷たくなる。そして、現代の日本の状況が、この時から100年経って、根本的に何も変わっていないことに思っていた。何ということだ、私は小さく吐息をつく。

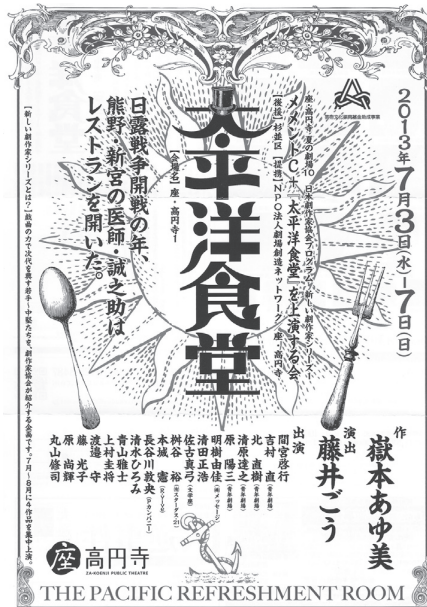
この劇には大逆事件の首謀者とされた幸徳秋水、文化学院創始者であり誠之助の甥である西村伊作、牧師で作家だった沖野岩三郎など

が登場する。その中でもちょっと異彩を放っているのが真宗大谷派の僧侶高木顕明ではないか。劇はもちろんフィクショナルなものだから全ての名前は変わっていて、高木顕明は高萩懸命という役名になっている。高木顕明は大逆事件に連座し、死刑判決を受けたが無期懲役になった。その年に真宗大谷派から除籍処分を受け、3年後の1914年に秋田刑務所で自殺した。芝居のパンフレットに大谷派僧侶の泉恵機さんが書いている。「高木顕明が新宮の住職時代にやったことは、(中略)日露戦における非戦、新宮の公娼制度に対する性の売買への批判、被差別部落の人々との共生への願いと行動の三つだった。当時において、このような願いと行動に生きることは、驚異的なことであり、世間からの四面楚歌は当然のことであった。しかし、ここは、紀州新宮なればこそ、大石誠之助、沖野岩三郎等、彼への理解と協力者がいた」。除籍処分を受けてから82年後、1996年4月1日付で大谷派は公的に謝罪し、高木顕明の名誉は回復した。

この劇は、座・高円寺の劇作家プログラムが今年から始めた「新しい劇作家シリーズ」の一番目の作品として上演された。今から伸びていくであろう劇作家・嶽本あゆ美が書いた本格的なホントの「骨太」の演劇だ。

(2013年7月3日～7日、座・高円寺にて上演)

(フォーラム90 可知亮)



死刑弁護人&約束 上映日程

『死刑弁護人』『約束』自主上映会募集中

問合せ先: 合同会社 東風 TEL: 03-5919-1542

◆「死刑弁護人」自主上映

◎12月28日(土)

上映時刻:10:00、14:00

地域: 栃木県宇都宮市

会場: とちぎ福祉プラザ・多目的ホール

主催: One's Cinema TEL:070-5011-1951

◆「約束」劇場公開

【大分・別府ブルーバード劇場】

8月3～23日

TEL:0977-21-1192

【青森・フォーラム八戸】

8月31日～

TEL:0178-38-0035

【香川・ソレイユ】

8月31日～

TEL:087-861-3302

【北海道・Cine とかち】

9月7～8日

<http://cinetokachi.net/>

【佐賀・シアターシエマ】

9月28日～

TEL:087-861-3302

◆「約束」自主上映

◎8月24日(土) 13:30/18:30

地域: 山形県酒田市

酒田市総合文化センター

主催: 日本国民救援会 酒田支部

TEL:090-5840-8556

◎8月24日(土) 10:00/14:00/18:30

地域: 和歌山県御坊市

会場: 御坊市民文化館

主催: 日本国民救援会 日高支部

TEL:0738-23-4881

◎9月7日(土) 13:00

地域: 東京都千代田区

会場: 日本弁護士連合会 2階 講堂「クレオ」

主催: 日本弁護士連合会 人権部 人権第一課

TEL:03-3580-9503

◎9月28日(土) 10:00/14:00

地域: 栃木県宇都宮市

会場: とちぎ福祉プラザ

主催: One's Cinema

TEL:070-5011-1951

◎10月3日(木) 14:30/18:30

地域: 千葉県千葉市

会場: 千葉市民会館 小ホール

主催: 日本国民救援会 千葉支部

TEL:043-224-7366

◎10月5日(土) 10:30/14:00/17:30

地域: 千葉県柏市

会場: アミュゼ柏プラザ

主催: 約束 上映実行委員会

TEL:047-145-1291

◎10月6日(日) 12:00/15:30

地域: 兵庫県神戸市

会場: 神戸アートビレッジセンター KAVC ホール

主催: 神戸映画サークル協議会

TEL:078-371-8550

◎10月19日(土) 10:00/12:30

地域: 千葉県山武市

会場: のぎくプラザホール

主催: 国民救援会 九十九里支部

TEL:080-5692-1944

◎10月26日(土) 14:00

地域: 茨城県取手市

会場: 取手市民会館

主催: 茨城映画センター

TEL:029-226-3156

◎12月14日(土) 15:00/18:00

地域: 青森県弘前市

会場: 弘前文化センター

主催: 日本国民救援会 中弘支部、NPO harappa

TEL:0172-31-0195

インフォメーション

◎公開シンポジウム 刑事裁判と科学鑑定

—和歌山カレー事件における科学鑑定の意味—

わたしたちは、刑事裁判に何を求めているのだろうか？

そして、法律家や科学者には……？

8月26日(月) 14:30～(14:00開場)

龍谷大学深草キャンパス 紫光館4階法廷教室

京都市伏見区、国道24号線竹田久保町交差点南東角

京都市営地下鉄「くいな橋」駅から東へ徒歩5分

*参加申込不要・参加費無料

基調講演「毒物学と科学鑑定～犯罪捜査・刑事裁判と科学者の役割～」

杜祖健 (Anthony T.Tu) 博士 (コロラド州立大学名誉教授)

シンポジウム「和歌山カレー事件と科学鑑定～亜ヒ酸の異同識別を中心に～」

話題提供: 小田幸児 (和歌山カレー事件再審弁護団・弁護士)

河合潤 (京都大学工学研究科・教授)

法律学・自然科学の研究者や実務家の方々にもコメントをお願いします。

司会: 石塚伸一 (龍谷大学法科大学院・教授)

主催: 文部科学省科学助成「新領域・法と人間科学」(石塚班)

後援: 龍谷大学矯正・保護総合センター / 龍谷大学法科大学院

詳細は [HPhttp://www.ryukoku.ac.jp/web/map/fukakusa.html](http://www.ryukoku.ac.jp/web/map/fukakusa.html)

◎辺見庸講演会

8月31日(土)

(詳細1ページ参照)

◎名張毒ぶどう酒事件 映画「約束」の上映とパネルディスカッション—奥西勝、半世紀の叫び

9月7日(土) 12時50分～16時30分

場所: 弁護士会館2階講堂「クレオ」

参加無料、事前申込み不要

13時～ 映画「約束—名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯」上映

15時15分～ パネルディスカッション

樹木希林氏 (女優、映画「約束」母タツノ役)

齊藤潤一氏 (映画「約束」監督)

鈴木泉氏 (名張事件弁護団長)

コーディネーター：江川紹子氏（ジャーナリスト）
主催・日本弁護士連合会
問い合わせ先 日本弁護士連合会人権部人権第一課
TEL:03-3580-9503 FAX:03-3580-2896

◎坂上香さん講演会 月と刑場 死刑制度をもつ社会に生きるということ

9月21日（土）14時開場 14時30分開演
（詳細2～3ページ参照）

◎死刑囚の絵画展

9月28日（土）12時～22時、29日（日）9時～18時
（詳細2～3ページ参照）

◎永山則夫の遺品展示（仮題）

死刑廃止デー前後の一週間開。

10月12,13,14日の土日連休も開催

10月10日は、ロビー奥の講堂で副代表挨拶など予定
場所・南麻布のEUハウスのロビー。この期間は、ロビーのみ自由入場可。入場無料

ロビーでの展示終了後、大学での移動展示を予定（早稲田大学など2か所くらい）
（詳細は次号に掲載）

◎福岡事件から見た死刑制度 第6回「死刑廃止・タンポポの会」市民集会

10月10日（木）18時30分開場 19時開始
福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん（福岡市立青年センター5階）

講師・八尋光秀弁護士

主催・死刑廃止・タンポポの会 070-5488-1765（山崎）

◎響かせあおう死刑廃止の声 2013

10月12日（土）
（5ページ参照）

◎日本の「罪と罰」の現場から

10月14日（月・休日）14時～17時

片山徒有「犯罪被害者にとって必要な支援とは？」

10月19日（土）14時～17時

山口真義「社会として罪を犯した人と向きあうこと」

11月9日（土）14時～17時

折山敏夫「私は刑務所でなにを見てきたか」

会場・柴中会公会堂（JR立川駅南口徒歩3分、モノレール立川南駅徒歩1分）

定員30名。定員になり次第締め切ります

受講料・1回1000円、会員学生生活困窮者800円、全回前納者2500円、会員2000円

問い合わせ・申し込み 一般社団法人 市民の学習・活動・交流センターシビル

電話ファクス 042-524-9014 civiltachikawa@yahoo.co.jp

郵便振替 00170-0-481827 シビル運営委員会

◎「太田昌国と現代社会を考える」

第4回『死刑は必要？—社会の「安全」を考える』

10月17日（木）19:00～21:00

代官山クラブ ヒルサイドサロン

参加費・一般1500円/学生1000円

主催・越後妻有こへび隊有志

問合せ・現代企画室 ☎03-3461-5082

◎福岡事件再審キャンペーン

「私はわらじがぬがれない」

10月23日（水）16時～ 京都弁護士会館

◎京都・当番弁護士を支える市民の会

10月26日（土）午後 京都弁護士会館地階ホール

終わらない『事件』たち

～えん罪事件に取り組む心理学者～

第1部：お話 浜田寿美男さん（心理学）

第2部：対談 山田悦子さんと（甲山事件元被告人）

◎憲法と人権を考える集い

京都弁護士会主催

「第43回・憲法と人権を考える集い」

11月17日（土）午後 シルクホール

「刑事裁判の現在～それでも冤罪は起こっている～」

ゲスト：周防正行氏（映画監督・法制審議会「新時代の刑事司法特別部会」委員）

◎死刑廃止全国合宿 in 広島

11月30日～12月1日

（詳細4ページ参照）

◎「いのちの表現展」（死刑囚の絵画展）

12月1日～1月中旬

真宗大谷派参拝接待所ギャラリー（東本願寺）

◎死刑を止めよう宗教者ネットワーク 第19回セミナー

12月13日（金）西本願寺

『約束～名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯～』上映講演（講演者未定）

死刑日録

6月26日 大阪地裁堺支部（畑山靖裁判長）は鈴木勝明さんに死刑判決

6月27日 東京高裁（井上弘通裁判長）は新井竜太さんの控訴を棄却、

死刑判決

7月1日 6月20日に一審の裁判員裁判で死刑判決を受けた伊能和夫さんへの死刑判決を破棄して無期懲役を言い渡した二審東京高裁判決を不服として、東京高検は死刑判決を求めて最高裁に上告

7月8日 最高裁第三小法廷（岡部喜

代子裁判長）は1審2審死刑を求刑され、無期懲役判決だった坂本明浩さんの被告側上告を棄却、無期懲役が確定

7月31日 大阪高裁（中谷雄二郎裁判長）は高見素直さんの控訴を棄却、死刑判決

【編集後記】

鞆の津ミュージアムの「極限芸術 死刑囚の絵画」展も7月21日に閉幕。3カ月で5122人の来館者を記録したという。1年前には思いもよらなかった展開である。だからやるべき事はきちんと積み上げていかねばならない。今年9回目の大道寺幸子基金の応募作品も続々と送られてきている。10月12日の集会での展示、ご期待下さい。

8月2日に、第6回日本一行詩大賞（主催・日本一行詩協会、後援・読売新聞社、角川春樹事務所。選考委員は辻井喬、辻原登、福島泰樹、角川春樹の4氏）が、永田和宏さんの歌集とともに、『棺一基 大道寺将司全句集』（太田出版）に決まったという。死刑囚の表現がさまざまな形で社会に受け入れられていくの

は嬉しいことだ。『年報・死刑廃止2013』も「極限の表現 死刑囚が描く」（仮題）を準備中だ。

飯塚事件の再審請求審の事実上の審理が終了し、福岡地裁はこの夏にも再審を開始するかどうかを決定すると報じられている。再審開始とは、無実の久間三千年さんが死刑を執行されたことを審理する死刑廃止運動にとって注目すべき裁判だ。また袴田事件の130通の証拠が開示され、年度内に再審開始かどうかの決定が出されるという。名張事件を含めて無実の死刑事件の再審動向から目が離せない。

参議院選で自民が大勝し、これまで以上になんでもやりかねない時代となった。死刑を乱発させぬためにさらに力を注がねばならない。（F）